

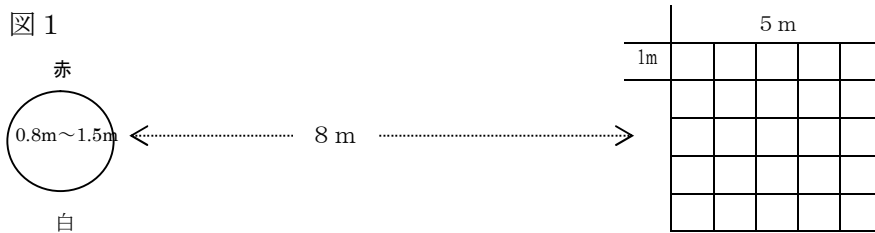
スローイングビンゴ 競技規則

第1条 (用具)

- (1) サンド・レッド (専用投球袋) は紅白2色をそれぞれ12個使用し、サンド・レッド1個の重さは、350gとする。
- (2) ビュット (目標袋) は黄色とし、重さは350gとする。
- (3) スコアカードはジャパンスローイングビンゴ協会指定の様式を使用する。

第2条 (コート) *図1参照

- (1) 的となる方眼は一边を1mとし、縦横5個、計25個とする。
- (2) 方眼から後方8mの位置にスローイングサークルをとる。ただし参加者の実態にあわせて、方眼までの距離を変更することは可能。
- (3) スローイングサークルは直径0.8m~1.5mの円形とする。ただし参加者の実態にあわせて、スローイングサークルの大きさをかえることは可能。
- (4) コートに向かってサークルの左側が赤、右側が白とする。



第3条 (チームの構成)

- (1) チーム編成は1チーム3人を基本とする。
- (2) 参加者の状況に応じて、6人対6人、12人対12人等の対戦も可能とする。

第4条 (投球方法)

- (1) 投球フォームは自由とするが、必ずサンド・レッド、ビュットのひもに指をかけるなければならない。
- (2) サンド・レッド、ビュットが着地するまで、投球者はスローイングエリアから出てはいけない。

第5条 (ゲームの進め方)

- (1) 対戦チーム代表者のジャンケンに勝った方を先行とし、赤いサンドレッドとする。1投目の選手がビュットを投げる。ビュットは2回まで投げる事ができる。ただし、失敗したら先攻と後攻を交代する。両チーム失敗の場合は、ビュットによるボーナスポイントは無しとする。
- (2) その後、先攻チームの1番目の選手 (ビュットを投げた選手) から交互にサンド・

レッドを投球する。

- (3) 縦・横・ななめいずれかに同色のサンド・レッドが並んだ時点（ビンゴ成立）でゲームは終了しそのチームに10点を与える。後攻のチームにリーチがかかっているときは、次の一投のみ認める。
ただし、後攻チームの投球後に先攻チームのサンド・レッドが移動したことにより、ビンゴ解除になった場合はゲームを続行する。
- (4) ビンゴの列の中にビュットが含まれている場合は、ボーナスポイントとしてさらに5点を与える。ただし、ビュットが外へ出た場合、ボーナスポイントはなくなる。
- (5) 各チーム12個のサンド・レッドを投げ終えてもビンゴが成立していないときのみ、4つ並んでいる状態（リーチ）があればリーチ1列につき3点を与える。
（1列につき3点なので、ダブルリーチで6点、トリプルリーチで9点となる）
- (6) 同一マスに両チームのサンド・レッドが入った場合、両チームに有効なポイントとなるが、同色のサンド・レッドが2個以上入ってもポイントは変わらない。
- (7) サンド・レッドがマスを仕切るライン上に着地したときは審判の判断により、どのマスに入ったかを決定する。判断がつかない場合は、同一競技者による再投もありえる。
- (8) すでにマスに入っているサンド・レッド、ビュットに投げたサンド・レッドが当たって動いた場合でも、元の位置に戻すことはできない。また、ラインの中心に移動した場合は、試合終了時に元の位置にして判定する。
- (9) 1セット終了し、次のセットは負けたチームが先攻となる。1セット目が同点の場合も先攻と後攻が入れ替わる。

第6条 勝敗の決定

- (1) 1ゲームは3セットまでとし、総合得点で勝敗を決定する。
- (2) その他順位の決定などは大会の規則による。

第7条 審判の権限

- (1) 試合中、競技規則に記載されていない事象が発生した場合は、すべてそのゲームの審判の判断により決定する。

平成24年4月改正

平成27年7月改正